

(東京外環道) 東京・調布陥没事故から考える 「リニアトンネル問題」講演会

昨年12月22日、リニア長野県駅予定地で駅の起工式が行われました。駅のすぐ西側からはじまる風越トンネルは、上郷黒田地域の住宅街の地下を通りますが、JR東海は誰の家の下を通過するか明らかにしていません。風越トンネルは住宅街、農地の下 50～100mを通過します。トンネル通過上には4階建てのマンションもあります。

2020年10月18日、東京調布で発生した外環道陥没事故は地下 47mで発生しています。本当に陥没や、土地の沈下、家の傾き、工事による環境影響はないのでしょうか？ 私達の地域、生活のあり方を考えましょう。



**日時：3月 11日(土)
13時半～**
**場所：飯田市上郷公民館
201(ホール)**

- **講演：リニア・トンネル問題あれこれ**
- **講師：檜田 秀樹 (フリージャーナリスト)**

1959年北海道生まれ。岩手大学卒業。コンピュータ関連企業勤務を経て、NGOスタッフとしてアフリカ難民キャンプで活動後、フリージャーナリストに。国内外の社会問題、環境問題取材。「悪夢の超特急リニア中央新幹線」(旬報社)で、第58JCJ(日本ジャーナリスト会議)賞を受賞。ハンセン病を描いたルポ「雲外蒼天」で第1回週刊金曜日ルポ大賞報告文学賞を受賞。

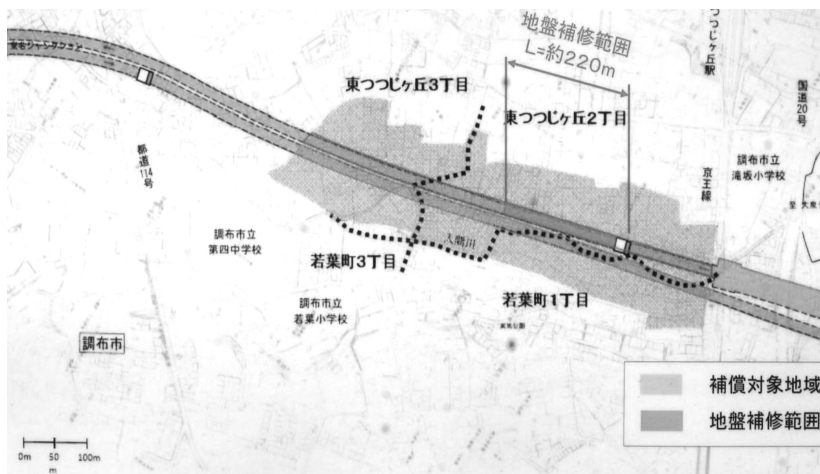
著書:「リニア新幹線が不可能な7つの理由」(岩波ブックレット、2017)、「〈増補〉悪夢の超特急リニア中央新幹線/建設中止を求めて訴訟へ」(旬報社、2016)、「自爆営業/その恐るべき実態と対策」(ポプラ新書、2014)、「世界から貧しさをなくす30の方法」(共同編集、合同出版、2006)など。

- **資料代300円のご負担お願いします。**

◎ **連絡先 リニアから自然と生活環境を守る沿線住民の会**

・熊谷 清人(24-8861) ・大坪 勇(090-6546-0835) ・北林 強(090-1865-8868)

樫田秀樹さんのブログ「記事の裏だって伝えたい」から 東京外環道調布の事故



「NEXCOは、家屋のヒビ、門扉のゆがみなどには「補修」で広範囲に対応しているが、地盤の緩みに関しては、直径16mのトンネル直上の長さ220mの範囲、つまり16 x 220mという長方形きっかりだけでしか起きていないと断言している」「家屋が痛んだのに、長方形から外れた人たちには、賠償も補償もなく、地盤補強もなく、ただ、長年の付き合いのあるご近所が、櫛の歯が抜けるようにいなくなるのを見ているしかない。」

「陥没から1年4カ月が過ぎた今でも、現地では長方形の中でも外でも、被害が広がっていることだ。新たに発生する壁面のヒビ、NEXCOが修理したはずなのに再び発生するヒビや傾き、沈下する路面。こういう土地で、引っ越そうにも引っ越せない住民がいる。問題は終わっていないどころが深刻化している。」

樫田秀樹さんの公開フォーラムでの講演原稿より

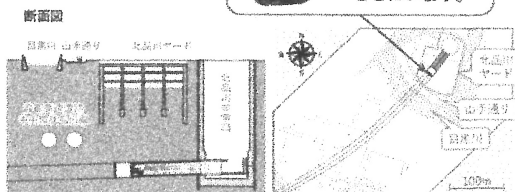
2022/10/16 高木仁三郎市民科学基金「市民科学」公開フォーラム

●新たな大深度事故

シールド掘進工事（調査掘進）の進捗状況

50m程度掘削が進んだため、シールドマシンの後ろに運転操作室などを載せた台車を運転する作業を行っています。これにあわせてシールドマシンの座機を行います。

2022年3月30日現在
シールドマシンは
ここにいます。



★2021年10月14日に品川駅近くの「北品川非常口」（立坑）を大深度で発進したシールドマシンがわずか50mで掘進不能となる。土を削るカッターから噴出される添加剤が目詰まりを起こしたためとの説明。工事再開は2023年度。

●下落する資産価値



★東玉川地区。2016年からリニアルート直上の5軒が『振動や電磁波が怖くて住めない。資産価値下落の前に』と次々と転居。ある家の土地価格120坪で2億円超が売却時には2千万円以上の減額となる。資産価値下落は始まっている。

●裁判＋市民運動

★原告の「リニア新幹線から住環境を守る田園調布住民の会」は裁判だけに頼らない。日常的に、チラシ配布、勉強会、映像づくりに励む。その結果、初めて問題を知る住民は少なくない

